

環境	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p><input type="checkbox"/> 環境および食の安心・安全に配慮した栽培技術の確立</p> <p><input type="checkbox"/> 栽培環境および品種が作物の品質に及ぼす影響</p>
key word	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境保全型農業 ■ 土壌病害 ■ 生物的防除 ■ 機能性成分 ■ 品種 ■ 栽培環境 	課題解決に役立つシーズの説明
	<p>1) 環境および食の安心・安全に配慮した栽培技術の確立</p> <p>近年、食料生産において、環境および食の安心・安全に対する意識が消費者と生産者ともに高くなっています。現在、有機栽培や特別栽培・環境こだわり農産物認証制度(地域の慣行レベルに比べて化学合成農薬の使用回数と化学肥料の窒素成分を半減して栽培)による栽培が求められていますが、幅広い普及には至っていません。原因として、病害虫や雑草に対する農薬の使用が制限されること、化学肥料の使用が制限され、さらに有機質肥料の選定・入手が困難であることが考えられます。そこで、環境および食の安心・安全に配慮した栽培技術を確立するために、作物病害の生物的防除および未利用資源の農業における循環利用に関する研究を行っています。</p> <p>[研究事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植物内における青枯病菌の非病原性株への表現型変異メカニズムの解明 ・ 青枯病菌の非病原性表現型変異株を利用した作物土壌病害の生物的防除法の確立 ・ アミノ酸発酵副生液のタマネギ生産における循環利用法の確立
<p>森 太郎 Taro Mori</p>	
<p>教育学部 教授</p>	<p>2) 栽培環境および品種が作物の品質に及ぼす影響</p> <p>作物の品質は、これまで外観、嗜好性の観点から評価されてきましたが、近年、抗酸化性や抗変異原性などの機能性が注目されています。また、これらの品質は栽培環境や品種によって変化します。そこで、作物の高品質・高付加価値化技術の開発のため、栽培環境や品種が作物の品質、特に機能性成分に及ぼす影響について明らかにする研究を行っています。</p> <p>[研究事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ナスの嗜好性および機能性成分の品種間差異 ・ 種子形成がナス果実の機能性成分に及ぼす影響 ・ イチゴ果実の成熟過程において光が着色に及ぼす影響 ・ 栽培温度がイチゴ果実の嗜好性および機能性成分に及ぼす影響 ・ メロン‘プリンス’の収穫時期が果実内成分に及ぼす影響
<p>【専門分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培学 ・園芸学 ・植物病理学 	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●博士(環境共生学) ●2004年 熊本県立大学 環境共生学部 卒業 ●2006年 熊本県立大学大学院 環境共生学研究科 博士前期課程 修了 ●2012年 熊本県立大学大学院 環境共生学研究科 博士後期課程 修了 ●2006年4月～2013年9月 佐賀大学農学部附属 アグリ創生教育研究センター — 技術員 ●2013年10月～ 滋賀大学 教育学部 講師 ●2016年4月～ 滋賀大学 教育学部 准教授 	